

選書のポイント

読み手は、子どもたちに1冊でも多くのすばらしい本に出会ってほしいと願っています。しかし、毎年数多くの本が出版され、その膨大な本の中から、子どもたちに合う本を選ぶのはなかなか難しいことです。ガイドブックやリストなどを参考に、子どもたちの年齢や人数を考慮して、多彩なジャンルから選ぶようにしましょう。

- **年齢や興味に合ったもの**  
その場に集まった子どもたちが理解でき、楽しめる内容のものを選びましょう。
- **遠目がきくもの**  
大勢に見せるには、ある程度の大きさのものが適しています。また小さいものなら、絵の色や線がハッキリしていて遠目がきくものを選びます。
- **絵と文のバランスがよいもの**  
文章が極端に多すぎるものや、絵と文章の進み方が合っていないものは控えます。
- **多彩なジャンルから**  
絵本のジャンルを大きく分けると、「物語の本」と「知識の本」になります。「物語の本」は、「創作」か「民話(昔ばなし・伝説)」に分かれ、それぞれに場所(日本・海外)、主人公(人間・動物・男女・年齢)などの設定があります。「知識の本」は、生活・自然・乗りもの・食べ物ものや、言葉(言葉遊び)などがあります。
- **読み手が好きなものを**  
「このおはなしが大好きだから、子どもたちにも楽しんでもらいたい」という気持ちで絵本を選ぶことも大切です。
- **ロングセラー作品のよさを生かそう**  
出版から20年以上刊行が続いている本をロングセラー作品といいます。長い年月、子どもたちに親しまれ続けている本です。プログラムに取り入れると安定感が生まれ、おはなし会が縮まります。
- **いい本とおはなし会に向く本は違う**  
「良書」といわれているものが、おはなし会に適しているとはかぎりません。おはなしが長すぎるものや、絵が小さく遠目がきかないものは、おはなし会に取り入れるのは難しいかもしれません。
- **声に出して読んでみる**  
気に入っている作品でも、文章のリズムが自分に合わない(口に乗らない)、読みづらいことがあります。また、昔ばなしは再話者によって、表現や雰囲気はかなり異なります。いくつかの作品を読み比べてみてから、選ぶといいでしょう。

著作権保護コンテンツ

ロングセラー絵本

長く愛されてきた本には、読み手も聞き手も、やはり安心感があるものです。プログラムに加えるとおはなし会が縮まります。



『くるんぱのようちえん』  
作/西内みなみ 絵/堀内誠一 990円(福音館書店)  
くるんぱは、大きくなったので動きに出ることになりました。最初はビスケット屋さん、次はお皿づくり、靴屋さん、ピアノ工場。でも、どれももううまくいかなくて、店主に「もう、けっこう」と言われてしまうのでした。



『からすのパンやさん』  
作/かこさとし 1,100円(偕成社)  
からすたちが住むいずみがかもりのパン屋さんには、たくさんの種類のパンがところ狭しと並んでいます。のこぎりパンやヨットパン、さざえパンなど、80種類のパンが一堂に集まっているページに、子どもたちはクギづけです。

『これはのみのぴこ』  
作/谷川俊太郎 絵/和田誠 1,980円(サンリード)  
「これはのみのぴこ」「これはのみのすんでいるねこのごえもん」「これはのみのすんでいるねこのごえもんのしっぽ」というふうに、言葉がどんどん重なっていく、積み上げ歌です。



『でんしゃにのって』  
作/とよたかずひこ 1,430円(アリス館)  
うららちゃんは電車に乗って、おばあちゃんのところへひとりで出かけます。途中からワニやクマやヘビなど、たくさん乗ってきて満員です。電車はガタゴト走ります。



『わにわにのおふろ』  
文/小風さち 絵/山口マオ 990円(福音館書店)  
お風呂が大好きなわにわに。浴槽にお湯がたまったら、おもちゃを浮かべ自分も湯船へ。じよろろーん。歌も歌います。たくさん遊んだら、最後にお湯にもぐって、じーつとあたたまります。あー、いい気持ち!



『ねえ、どれがいい?』  
作/ジョン・バーニンガム 訳/まつかわまゆみ 1,650円(評論社)  
お風呂のお湯をゾウに飲まれちゃうのと、タカにごはんを食べられちゃうのと、ブタにズボンをはかれちゃうのと、カバに布団をとられちゃうとしたら、どれがいい? どれもウーと言いたくなるような選択肢が、子どもには楽しくて悩ましいようです。

### 中学年向けに

③と次の2点とを入れ替えて

⑥『すきなことにがてなこと』 4分  
作/新井洋行  
絵/嶽まいこ  
1,540円(くもん出版)  
みんなそれぞれに、好きなこと、苦手なことがありますね。4コマの部分は指差しをしながらか読むといいでしょう。

⑦『アーサー王のひひひひまご』 4分  
作/ケネス・クレーグル  
訳/津森優子  
1,650円(瑞雲舎)  
次はわざわざ戦う相手を探しに出かけた6歳の男の子、ヘンリーの物語です。ヘンリーが繰り返し名乗りを上げるセリフは高らかに読み上げて。

入れ替えた場合、④の導入は「エマおばあちゃんが到達した場所より北西、」を省いてください

### プログラム (30~40分) 小学校高学年

テーマ: 「逃げて・探して・出会う」  
季節を設定せずに組んだ40分以内のプログラムです。季節感のある作品をプラスしてもいいでしょう。

①『やまのかいしゃ』 7分  
作/ズスキコージ  
絵/かたやまけん  
1,650円(福音館書店) ※初版 1991年/架空社  
朝起きるのが苦手な人はいますか? このおはなしの主人公「ほげたさん」も、朝が苦手です。縦書きの大判絵本です。前半はのんびりと、後半「きょうはやまのかいしゃへいこう」と、ほげたさんが決心してからは軽快に読むといいでしょう。

②『にげて さがして』 4分  
作/ヨシタケシンスケ  
990円(赤ちゃんとママ社)  
ほげたさん、ほいさくん、山の会社でリモートワークですね。ふたりが楽しく頑張れる場所があってよかったです。でも、頑張れないときもありますね。小さな絵本ですが遠目がききます。詩のように読んでもいいでしょう。

③『エマおばあちゃん、山をいく アパラチアン・トレイル ひとりたび』 8分  
作/ジェニファー・サムズ  
訳/まつむらゆりこ  
1,980円(廣済堂あかつき)  
逃げて、探して、動いての次は、前へ歩みを進めた伝説のおばあちゃんハイカー、エマおばあちゃんをご紹介します。副題まで読みあげます。見返し部分も含め地図のページは、木枠の見出しと本文を読めばいいでしょう。巻末の解説もぜひ紹介を。

④『ノースウッズの森で』 12分  
文・写真/大竹英洋  
1,430円(福音館書店)  
エマおばあちゃんが到達した場所より北西、ノースウッズという森と湖の世界で、野生のオオカミの姿を探すがいます。冒頭の1ページをゆっくりと読んだあとは、テンポよく話しかけるように読み、最後のページで再びゆっくりと。

⑤『海とそらがであうばしょ』 5分  
作/テリー・ファン、エリック・ファン  
訳/増子久美  
2,310円(化学同人)  
表紙を見せながら、最後にこんな場所へ出かけてみましょう。絵で語る部分が多い作品です。間を大切に。

## プログラムを考えるヒント

高学年のプログラムは、ついついメッセージ性の強いものになりがちです。それでもどこかに、ナンセンスや気の抜けるような要素のある作品を取り入れると、全体が重くならず、メインの本が印象に残ります。年齢の低い子向けの作品を組み込むのも一案ですね。読み手の願いや思いが前面に出すぎないよう、テーマはあえて伝えなくてもいいでしょう。

さまざまな国の選手が集うオリンピック・パラリンピックや、2025年に大阪で行われる予定の国際博覧会などは、読みかかせのチャンスです。活躍した選手や心に残ったエピソードなどをきっかけに、世界中の絵本を読めます。

なかには品切れ中の絵本しかないこともあるかもしれませんが、そんなときこそ、図書館の出番です。今は買えないけれど、学校図書館、地域の公共図書館にはその本があることを伝えてください。子どもたちが図書館に足を向けるきっかけにもなります。

**児玉ひろ美** こだま・ひろみ  
図書館司書。JPIC 読書アドバイザー。小・中学校を中心に読みかせやブックトークを実施。読書アドバイザー養成講座の講師も務める。著書に「0~5歳 子どもを育てる「読み聞かせ」実践ガイド」(小学館)がある。

### プログラム 書店

テーマ: さあ、出かけよう! 夏を楽しもう! 時間: 30分

このプログラムのポイント  
ワクワク・ドキドキの「夏」がやってきました。絵本の中で海や山へ出かけましょう!

①『ビッグブック「なつのいちにち」』  
作/はたこうろう  
9,680円(偕成社)  
夏の到来を大型絵本で迫力いっぱい表現します。同じ言葉が続くときの読み方を工夫しましょう! つかまえたのはどんなクワガタ?

②『ひらいてびっくり! のりもの のりもの』  
作/中垣ゆたか  
1,430円(偕成社)  
いろいろな乗りものに乗っておばあちゃんの家に向かいます。めくったページが大きく左右に開きます。中の絵もゆっくり楽しんでね。

③『うみべのこねこ』  
作/宇野克彦  
絵/西川おさむ  
1,430円(ひさかたチャイルド)  
海辺に捨てられた子ネコは、カニやカメと一緒にいろいろな体験をします。子ネコが楽しいことに合わせて、希望を感じるおはなしです。

④『うみのそこ たんけん』  
文/中川ひろたか  
絵/澤野秋文  
1,540円(アリス館)  
海の底ってどうなっているの? 海坊主が海水を飲み干したあとに探検です。ページが縦と横に開くので事前に確認しておきましょう。

⑤『せとうちたいごさん ふじさんのぼりタイ』  
作/長野ヒデ子  
1,430円(童心社)  
海から見ていた日本一の富士山に、たいごさんが子どもたちと一緒に登ります。富士山の笠の種類や、きょうだい山の情報もいっぱい。本の中に出てくる歌と一緒に歌うのも楽しいです。おみやげに富士山の折り紙を折るのもおすすめです。

⑥『とっておきのカレー』  
作/きたじまごうき  
1,430円(絵本塾出版)  
山小屋名物、とっておきのカレーの秘密をおじさんが話してくれます。裏表紙の飯ごうに書かれたメッセージも読んでくださいね。

(下伊豆かおり)

### プログラム 高齢者

テーマ: もののけ絵本で肝だめし 時間: 25~30分

このプログラムのポイント  
怖いけどおかしくて、怖いけどせつない。そんな夏のおはなしを肝だめしのように楽しんでもらえるプログラムです。

①『ごぞうさんとおばけ』  
文・絵/はせがわかこ  
1,540円(大日本図書)  
さあ、肝だめしのはじまりです。まずは怖がりの小僧さんのおはなしから。太鼓のシーンではみなさん一緒に手拍子で応援をお願いします。

②『うみぼうず』  
作/杉山亮  
絵/軽部武宏  
1,320円(ポプラ社)  
ほつとしたのもつかの間。どんどん怖くなりますよ。「ひしゃくをよこせ」の部分では、ほかの読みかかせメンバーも群読風に参加して盛り上げましょう。

③『ごろべえ もののけのくにへいく』  
作/おともやすお  
1,430円(童心社)  
次は怖いもの知らずの豪快な侍が登場します。ろくろつ首も大入道もまったく平気な侍のごろべえが、大あわてで走りだすほどぞっとするものとは何でしょう。

④『月見草の花嫁 佐賀民話の語りより』  
絵・文/飯野和好  
1,650円(BL出版)  
もののけ、といっても怖いだけじゃありません。夏の月夜にびつたり、しっとりせつない恋物語。月見草を見かけたらやさしくしてあげたくなるかもしれませんよ。

⑤『げげのぶし』  
「ものがたり12か月 夏ものがたり」より  
編/野上暁  
絵/高島那生  
作/内海隆一郎  
1,980円(偕成社)  
夏休みにひとり泊まるおばあちゃんち。心細くて眠れないドキドキの夜は、みなさんも記憶があるのでは? 「げげのぶし」という心強い言葉、本日の肝だめしのおみやげ代わりに覚えて帰ってくださいね。

(西原夏子)

## Anti Anti-Aging …アンチ・アンチエイジング

私は「権力」や「力」といったあらゆるものに対して、「アンチ」で生きてきました。それを貫かないと、生きてこれなかったのかもしれませんが。でも、エイジングに対してだけは「アンチ」ではないんです。いいじゃん、年をとっても。当たり前じゃない、シワやたるみが出て。白髪が増えるにつれて、鮮やかな色のスカーフも「飛ばない」ようになりました。加齢からのすてきな贈りものですよ。だから私は、「アンチ・アンチエイジング」です。

## Phytochemical Soup …ファイトケミカルスープ

ふだん、ほとんどの食品はクレヨンハウスの野菜市場で購入しています。気分転換になるから料理も好き。クレヨンハウスのオーガニックレストランでもお出ししている「ファイトケミカルスープ」は、家でも作っています。人間の体に大事な栄養が詰まっています、飲んでると体調がいいんです。味つけをしないので最初は「ん？」と思うかもしれませんが、ぜひ作ってみてください。食べているうちに、野菜本来のおいしさが感じられるようになります。

## Writing Time …執筆の時間

いちばんゆっくりできるのは、夕食がすんで、それからの数時間ですが、基本的にはいつでも執筆できます。ただ、今はそれ自体少なくなりましたが、飛行機や新幹線の中など移動中は書きません。誰かに必死な姿を見せるのは恥ずかしいという気持ちがあって。できるだけ人のいないところで必死に書きます。

## Sowing Seeds …種まき

四季折々の季節の花は、できるだけ種から育てています。芽が出たときのうれしさは何度やっても格別。庭仕事をしているときは、あらゆる「ねばならない」をひととき忘れて集中できます。

挿し芽で増やすのもひそやかな喜びで、どうしたら根っこが出てくるか、試行錯誤しながら楽しんでいます。なので、うちには小さな挿し芽が入った試験管がたくさん立っているんです。

## 落合恵子さん を知る



# 7つの キーワード

もっと、絵本のこと、ご自身のことを。凜とした生き方と丁寧なライフスタイルは、やっぱり女性たちの憧れです。

## Picture Book Time …絵本の時間

「絵本の時間ね」と言い、布団の中で絵本を読んでくれた母。NHKラジオの番組名『落合恵子の絵本の時間』は、母の言葉からとったものです。「お母さんが家にいなくてさみしいね」と言われても、そうは思いませんでした。母が帰ってくるまで本を読む楽しさがあったから。そして眠る前の「絵本の時間」があったから。『泣きかたをわすれていた』（河出書房新社）の主人公・冬子さんと私には重なるところがあります。

## Bookstore …本屋さん

子どものころ、贅沢はできなかつたけれど、母は可能な限り、本を買ってくれました。おこづかいをもらうようになってからは、今月はあの本かこの本かと、一生懸命に考えた記憶があります。あるとき、本屋さんで「触っちゃダメ」と言われたことが。当時は子どもが汚れた手で本を触り、汚してしまうこともあったのでしょう。私は「いつか、はたきをかけられない本屋をやりたい」、そう思うようになりました。

## Translation …絵本の翻訳

翻訳する海外の絵本は、自分で見つけてくることもあれば、イタリア・ボローニャなどのブックフェアに行った編集者が私に合いそうなものを持ってきてくれるなど、いろいろです。大事にしているのは、原作者の思いです。かといって直訳するだけではつまらないから、原作者の思いをまるごとそこに置きながら、かつ訳者として伝えたいその本の魅力やエッセンスも、選んだ言葉の中に少し加味できたらいいなと思っています。



# 絵本作家さん こんにちは！

この人にあれもこれも



『おやすみ、ほく』などでおなじみ！

## 落合恵子さん

本の世界に住む人を、  
心の中に招くおもしろさを体験しました。

子どもの本の専門店「クレヨンハウス」を主宰する作家の落合恵子さん。  
絵本とご自身の子ども時代の読書体験について語ります。

撮影/石川正勝

**PROFILE**  
おちあい・けいこ  
1945年栃木県生まれ。文化放送のアナウンサーを経て作家・翻訳家に。1976年よりクレヨンハウス主宰。月刊『クレーン』発行人。文化を明るく拓く提案を続ける。今年3月、『偶然の家族』（東京新聞）が31年ぶりに復刊。

絵本を開くと母が私の  
お布団に入ってくれた

子ども時代の私はわりと外で遊ぶ子でもあったんです。母は仕事に出ていて夕方にならないうと帰らなかったもので、夕暮れに友だちと別れたあとはアパートの階段に座り、本を読んで母の帰りを待ちました。

そこでよくしていたのが、自分の心の中に物語の住人を招き入れること。それは主人公であったり、相棒のイヌやネコだったりといろいろでしたが、彼女・彼らと心の中で自由におしゃべりしたり、遊んだり。そんなおもしろさを知った気がします。

絵本が好きになったのは、夜、眠る前に絵本を開いていると、母が布団の中に入ってきてくれたから、かもしれない。冬の寒い日、台所仕事をしたあとの母の手足は冷たくて。「冷たい！」と言いながらも、とてもうれしかったんですね。

本を読んでもらう時間と空間にある、お互いの信頼と共感。それをたっぷり味わわせてもらったように思います。

『おそうじロボットのキュキュ』

作/こもりまこと  
1,540円(偕成社)



キュキュはちょっと古めのロボット。ゴミを集めてみんなをきれいにし、ドリンクの注文、空き缶のリサイクルと、大忙し。ところが雨が降る中、ついに動けなくなり、リサイクル工場へ。キュキュは帰ってくるかな？

『かいじゅうごっこ』

作/ルーシー・カズンス  
訳/木坂 涼  
1,760円(偕成社)



ガブリエルの家にはたくさんのおどろき獣がいます。とんがった歯でも、毛むくじゃらでも、目がぎょろっとしていても、爪がのびていても、歯がギザギザトゲトゲでも平気です。だって怪獣ごっこですから。

『どうしてなくの？』

文/フラン・ピンタデーラ  
絵/アナ・センチル 訳/星野由美  
1,980円(偕成社)



マリオが「ほくたち どうしてなくの？」とたずねると、お母さんはちょっと考えて言いました。悲しいとき、怒ったとき、ぎゅっと抱きしめてほしいとき、大人になるため……。『泣く』にはいろいろな理由があるのです。

『4羽のめんどりと1羽のおんどり』

文/レーナ・ランドストローム  
絵/オロフ・ランドストローム  
訳/加藤悦子  
2,200円(解放出版社)



4羽のメンドリと小さな1羽のオンドリが一緒に鶏小屋に住んでいました。エサの場所は決まっていますが、メンドリたちはオンドリの場所だけが広いことに気がつきました。ほかにも不公平なことがたくさんありました。

『そばにいるよ』

文/スムリティ・ホールズ  
絵/ステイブ・スモール 訳/青山 南  
2,090円(化学同人)



調子が悪いときも、楽しいときも、悲しいときだって「そばにいるよ」とクマ。だてきみは、無理だと思っていたことを、やる気にさせてくれたんだから……。そんなとき、少し距離を置こうと切り出したリス。さて、ずっと一緒にいたふたりの行く末は？

『エイドリアンはぜったいウソをついている』

文/マーシー・キャンベル  
絵/コリーナ・ルーケン 訳/服部雄一郎  
1,760円(岩波書店)



「うちには馬がいるんだよ」って言いふらしているエイドリアン。小さな家で暮らし、いつもほんやりしている彼は、ウソをついていると思う私は、「どうしてウソをついてわかるの？」と母さんに聞かれました。

『わたしはあなたを しんじてる』

作/リサ・パップ  
訳/菊田まりこ  
1,540円(WAVE出版)



イヌのスターはセラピードッグになるために、毎日マディと練習しています。そしてテストを受けるために高齢者施設に行き、孤独なハンフリーさんに会います。果たしてスターはハンフリーさんの心に寄り添えるでしょうか？

『たぬきのおまじない』

文/おおなり修司  
絵/丸山誠司  
1,430円(絵本館)



かわいいタヌキが「た」をぬくおまじないを言います。すると「たか」はただの「か」、「宝箱」は「空箱」、「たまむし」は「まむし」になってしまいます。盗賊に追いかけてられ、最後には「た」を足すおまじないをして大変なことに。

『うりぼうと母さん』

写真・文/矢野誠人  
監修/林 良博  
1,320円(大空出版)



「うりぼう」は、イノシシの赤ちゃんのこと。体の模様が、野菜のウリに似ているので、そう呼ばれています。お乳を飲んで、昼寝して、食べものを探したり、遊んだり。兵庫県六甲山で暮らす、イノシシ親子の一日を追った写真絵本です。

『おおきなキャンドル馬車にのせ』

作/たむらしげる  
1,540円(偕成社)



小人のニコさんとロボットのダダくんが、大きなキャンドルを運んでいます。すると大勢の小人がイチゴをとったり、シナモンを運んだり、なんと汽車にはパティシエが。大きなケーキをみんなで作ります。

『みたら みられた』

作/たけがみたえ  
1,650円(アリス館)



ふと屋根の上にいるネコを見たら、ネコと目が合った。チューリップの茎にバッタを見つけたら、バッタと目が合った。「みたら」「みられた」。そして、闇夜でタヌキを見たら……。なんと「みられた」！ダイナミックに木版画で描かれた動物たちが次々に登場します。

『るーくんのベッド』

作/はせがわさとみ  
1,210円(アリス館)



寝る時間になっても起きていたい、るーくんです。するといつも遊んでくれるおもちゃたちが、るーくんのベッドに次々に入り込んで寝始めました。枕がお迎えに来て、やっとやっと夢の世界へ。おやすみ、るーくん。

『ナマケモノだから』

作/むらかみひとみ  
1,650円(イマジネーション・プラス)



森の動物たちが言い合いを始めました。走るの誰がいちばん？ 大きな声は？ 舌が長いのは？ じゃあ、ぶらさがるのは誰がいちばん？ その間もずっとぶらさがっている「ナマケモノがいちばん！」。

『ながれぼし』

監修・写真/武田康男  
構成・文/小杉みのり  
1,430円(岩波書店)



夕暮れから夜明け近くまでの空を見ることが出来る写真絵本です。金星、土星、天の川、彗星、すーっと流れる流れ星。空の探検家によるさまざまな星の写真。巻末の説明とあわせて読むとさらに引き込まれます。

『リアスのうみべ さんてつがゆく』

作/宇部京子  
絵/さいとうゆきこ  
1,430円(岩崎書店)



東日本大震災後、多くの人が絶望を感じている中、わずか5日で三陸鉄道は動きだしました。みんなの足、みんなの希望です。町と町、心と心がつながります。みんなで力を合わせてつなげます。がんばれ！ がんばろう！

もう読んだ？

**新刊**

**100!!**

2020年12月～21年2月に発売された新刊絵本の中から、読みきかせにもおすすめの100冊を選びました。子どもたちとすてきな時間を過ごしてください。

※出版社五十音順  
🔴マークは乳幼児から、🟢は中・高校生も楽しめる本です。

**定期購読者限定プレゼント**

新刊絵本プレゼントの詳細は、このページの下欄をご覧ください。

『ほくたちの「おとうに会う」作戦』

文/荒尾美知子  
絵/ゴトウノリユキ  
1,980円(あすなろ書房)



はる二イニイは、おとうの顔を知りません。戦争で焼けてしまっ、写真も残っていません。そこでしんいちたちは、お盆の最後の晩、霊が空に戻るときに「おとうに会う」作戦を計画しました。1960年の夏のことです。

『なんでもない』

作/鈴木のりたけ  
1,650円(アリス館)



男の子がガラスに黒くてつまらなそうと言います。でもガラスは黒いことをまったく気にしていません。カメもモグラもゾウもつまらないだろうと思っていたら、みんな口をそろえて「なんでもない」と答えます。

『ひばりに』

詩/内田麟太郎  
絵/うえだまこと  
1,430円(アリス館)



きみにかける言葉がないから、隣に座つてみよう。いや、タンポポの綿毛になって、きみの思いをヒバリに話そう。大震災にあった子どもを励ますために書かれた詩とやわらかな絵の本です。

※JPIC直販の定期購読の方に、抽選で新刊絵本100冊から1冊をプレゼントします。巻末のアンケートハガキまたはホームページのアンケートフォームから応募してください。